



穴井戸観音 名勝調査報告書

豊後高田市教育委員会

例 言

- 1、本調査報告書は、穴井戸観音の意見具申に伴い作成した。
- 2、国登録記念物（名勝地関係）への意見具申に伴い、名称を「穴井戸観音」とする。
- 3、穴井戸観音について、平澤毅氏（文化庁文化財第二課）、山路康弘氏（元大分県教育庁文化課）にご指導、ご助言をいただいた。
- 4、本調査報告書の編集は豊後高田市教育委員会文化財室の松本卓也が担当した。
- 5、本調査報告書に使用した現況写真は、豊後高田市・豊後高田市教育委員会が撮影したものを使用した。航空写真については豊後高田市のG I Sに使用された写真を使用した。
また、洞窟内の3 D測量による平面図・立面図に関しては、豊後高田市教育委員会が令和5年度に株式会社九州文化財総合研究所に委託して作成した。

目 次

第1章	穴井戸観音と周辺環境	
第1節	自然的環境	4
第2節	歴史的環境	5
第3節	民俗的環境	6
第3節	社会的環境	7
第5節	これまでの研究	7
第2章	穴井戸観音の内容と価値	
第1節	穴井戸観音の風致景観に対する評価の歴史的変遷	8
第2節	穴井戸観音の構成要素及び周辺の要素	10
第3節	穴井戸観音の価値	13
第3章	穴井戸観音と豊後高田市	
第1節	名勝としての穴井戸観音の意味	14
第2節	保存活用について	14
参考文献・資料		15
資料編		16
【図版】		17
図1：穴井戸観音の対象地域の位置を示す図面		
図2：田染地区大字図		
図3：田染地区村境概要図（江戸時代）		
図4：穴井戸観音周辺小字図		
図5：穴井戸観音周辺の要素の位置図		
図6：国東半島県立自然公園の規制の範囲		
図7：穴井戸観音範囲図（地形図）		
図8：穴井戸観音範囲図（公図）		
図9：穴井戸観音範囲図（航空写真）		
図10：穴井戸観音洞窟内平面図		
図11：穴井戸観音 断面図		
図12：穴井戸部分 断面図拡大		
図13：島原藩領田染組村絵図（間戸村）		
図14：穴井戸観音と権現ノ鼻の位置を示す図面		
図15：権現ノ鼻周辺の航空写真		

【穴井戸観音に関する文献等】	30
----------------	----

【現況写真】	32
--------	----

- 写真1：穴井戸観音 洞窟内部
- 写真2：穴井戸観音 遠景
- 写真3：穴井戸観音 薬師堂
- 写真4：鯛石
- 写真5：穴井戸観音 薬師堂内部
- 写真6：焼き仏
- 写真7：一石五輪塔
- 写真8：嘘吐き岩
- 写真9：鬼封じ込め跡
- 写真10：穴井戸観音 参道
- 写真11：穴井戸観音 参道入口
- 写真12：穴井戸観音 洞窟内部（西側）
- 写真13：穴井戸観音 洞窟内部（東側）
- 写真14：穴井戸観音 洞窟内部（濡れ観音から入り口側を望む）
- 写真15：穴井戸観音 濡れ観音
- 写真16：穴井戸
- 写真17：キクガシラコウモリ

【参考：登録区域外】	41
------------	----

- 写真18：穴井戸の話の民話看板
- 写真19：旧菖蒲園
- 写真20：管理道
- 写真21：朝日岩屋
- 写真22：間戸寺跡（間戸二層塔）
- 写真23：権現ノ鼻

第1章 穴井戸観音と周辺の環境

第1節 自然的環境

○地理・地形的特徴

穴井戸観音は、豊後高田市南部に位置する田染真中の岩峰中にある洞窟につくられた霊場である。

国東半島でも田染地区は国東半島の付け根に位置し、大分県北部に特徴づけられる凝灰角礫岩質の火砕流堆積物（新生代第三紀・古期宇佐火山岩類の火山砕屑岩）と、両子山の火山岩群（新生代第四紀）による岩石が田染盆地を挟んで分布している。田染小崎と田染真中の境界には、古期宇佐火山岩類の火山砕屑岩からなる屹立する岩峰群が形成されており、古くから田染耶馬の1つとして紹介されてきた。

一方で、間戸地区の集落は、台地状のエリアに展開しており、約9万年前の阿蘇4火砕流（Aso-4）の堆積物によってできた地形であり、田染石と呼ばれる凝灰岩質の柔らかい石材が東側の崖面に露出している。阿蘇4火砕流の地質は田染の幾つかの場所で見ることができ、恐らく盆地全体に埋積した阿蘇4火砕流の柔らかい地層は、小崎川や桂川などの侵食によって開析され、田染盆地や田染小崎の緩やかな傾斜地を作り出していったと考えられている。間戸の台地はその2本の川の間であって、丁度取り残された位置にある。

穴井戸観音のある岩山は、古期宇佐火山岩類の火山砕屑岩に分類される岩峰に位置しているが、周辺は奇岩と言われるほど不規則な岩峰群が並んでおり、朝日岩屋・夕日岩屋などの岩屋も形成されている。同地質では水平の層理構造がみられ、角礫が少なく、比較的軟らかい層が早く侵食され、岩峰中の凹凸を生み出し、地形を活用して岩屋や峯道が作り出されている。穴井戸観音の洞窟となっている部分については、角礫が非常に少なく、一帯では非常に軟らかい地層となっており、洞窟が形成されたものと考えられる。洞窟の入口付近には、大きく崩落した部分があり、いつ頃崩落したものかは不明であるが、一帯の地質の脆さを物語っているだろう。

トータルステーション等を使った実測図作成を行い、洞窟の内部はどの場所で断面図を作成すると、足元が最も広い“かまぼこ型”をしている事が分かった。また、穴井戸観音の中にできた小さな隙間「穴井戸」は、深くえぐれてはいるが、徐々に狭くなっており、実際は6mほどの深さの先はかなり細くなっていることが分かった。その先も数メートルは続いているようだが、非常に細い隙間で詳細に測定することはできなかった。一方で、濡れ観音に滴っている水がどこからしみだしているかなど、水の動きについて詳細は不明であった。

間戸地区の東側を流れる桂川は両子山を水源として、杵築市大田地区を通過して、田染地区に流れ込み、河内地区を経て豊後高田市の中心市街地へと流れている。一方で西側を流れる小崎川は、華ヶ岳附近を水源として、田染小崎の集落を通り、夕日岩屋などのある岩峰あたりで北に進路を変えて、田染横嶺で桂川と合流している。間戸地区は台地状の土地にあるため、河川に関連する洪水などの災害の影響は少なくなる一方で、河川による灌漑の恩恵を受けにくく、江戸時代の間戸村絵図を見ても、比較的人口が密集する地域でありながら、畑が多く展開し、水田はため池（絵図に書かれていないものもある）を使った小規模なものが所在する状況である。

○周辺の植生・動物

大分県の中でも国東半島は瀬戸内型気候域・旧火山地帯の植生が見られる。周防灘^{すおうなだ}に面した地域は、年平均気温 15℃、年間降水量は 1500～1600mm で夏季の雨量は少ない地域である。冬季は周防灘を吹き抜ける冬季北西季節風の影響でしばしば降雪をみる。

穴井戸観音周辺は、アラカシ群落を基調としつつ、標高の高い範囲には原生に近いコジースダジイ群落、更に急崖地についてはイブキシモツケーイワヒバ群落が展開している。穴井戸観音が所在する範囲は、イブキシモツケーイワヒバ群落となっている。かつては岩上に松が生育し、昭和末期のマツクイムシの被害によって、現在松が見られるのは限定的な部分となっている。

参道付近には、杉や竹などが植林されている他、洞窟の前にはシュロの木が植えてあり、かつては松明に使われたと思われる。

洞窟内には、キクガシラコウモリ（大分県 RD:準絶滅危惧種）、コキクガシラコウモリ（大分県 RD:準絶滅危惧種）が生息している。平成 20 年に行われた重要文化的景観「田染荘小崎の農村景観」の保存計画策定にかかる調査では、穴井戸観音の洞窟内に約 250 の越冬個体が確認されている。日中は洞窟で暮らし、日没後に洞窟から飛び出して、蛾や蜂などを採餌する。

第 2 節 歴史的環境

穴井戸観音が所在する田染真中（旧間戸村）は、豊後高田市南部の田染地区の西側に位置しており、台地状のエリアに村が開かれ、幾つかの池を使って農業を営んできた地域である。

古代の田染地区は国東郡田染郷に位置しており、平安時代後期には、宇佐神宮の根本荘園・本御荘十八箇所の 1 つとして田染荘が開かれた。

一方で、間戸村の西方・北方には岩峰群が聳えており、古代以来、六郷山寺院の行場が開かれていった。岩峰付近には、穴井戸観音だけではなく、朝日岩屋や間戸寺があり、二宮八幡神社も所在している。中でも、間戸寺は穴井戸観音に関連する寺院跡であったとされているが、現在では南北朝時代の石造二層塔【市指定有形文化財】が残されているなど、中世の信仰に関する遺跡が残されている。また、穴井戸観音や二宮八幡神社は雨乞いに関する伝承が多く残されており、田染小崎・真中地区を中心にした地域の水の守り神として庶民からも篤く信仰されてきた。

中でも、二宮八幡神社は、中村の元宮八幡神社、上野村の三宮八幡神社と並び田染三社とされる神社である。田染三社は、蔭村以外の田染荘全域の鎮守となっており、元は田染地区の郷社八幡社（元宮八幡神社）を観応 2 年（1351）に分祀したもので、間戸大明神（湍津姫命）、稲積大明神（市杵島姫命）に遷座したものとされる。これらの神社は農耕に関することから、井堰や水源地に関連すると指摘されており、二宮八幡神社については雨乞いの際には禁足地になっている「戸無し戸の口（田染小崎）」から水を汲んで境内に撒く、潮汲みの儀式が行われたとされている。

中世から近世にかけての田染地区の状況や景観を知る資料として、「島原藩領田染組村絵図【県指定有形文化財】」がある。これは元禄 2 年（1689）に島原藩の御役所に差し出した村絵図を原本としており、天保 7 年（1836）に田染村の様子を再度調査するために地元へ送付された地図を、庄屋達書き写したものである。各村の絵図を参照すれば、横嶺村から小田原に抜ける道以外には「何ぞ相変わり候儀これ無し」と記載があるため、この絵図は元禄 2 年頃の田染地区の様子を知る資料として使われている。

間戸村絵図を見ると、集落の形状・構成は現在と殆ど変化しておらず、岩峰の形状についても、子負い

岩と呼ばれる特徴的な形状の岩などについて、ある程度忠実に描いていることが分かる。また、岩峰上には岩屋を示す丸の記号が2つ描かれており、穴井戸観音と朝日岩屋を表している。特に穴井戸観音には、家形の堂宇の記号と「堂」の注記があり、当時から堂宇のようなものを伴っていたと考えられる。

近世後期になると、間戸村から産出される柔らかい岩質の凝灰岩「田染石」が注目され、田染真中の周辺に石工が展開していく。それまでは国東半島で広く採掘できる硬い安山岩を使って石造物を作ってきたが、「田染石」は加工がしやすく、穴井戸観音でも石仏などの彫刻を伴う石造物に重宝されていた。現在、田染地区では石工を営むものも少なくなったが、当時の石切場にて豊後石材が石材業を続けている（田染石は大分県立自然公園条例によって現在は採掘不可となっている）。

第3節 民俗的環境

穴井戸観音に関連して、いくつかの民話や伝承が現在に伝わっている。

穴井戸観音の洞窟の中にある穴井戸本体に関しては、底がなく、豊後高田市玉津・権現ノ鼻（現在の権毛附近）に繋がっているという話が伝わっている。逃げ出した鶏が穴井戸を通して権現ノ鼻に抜けて見つけたという話や、恵比須様が穴井戸で釣りをして大きな鯛を釣ったという話が残っている。権現ノ鼻は、高田城下に整備された船着き場となっており、大阪などのエリア外の世界と繋がっている海として、また豊後高田一帯の雨乞いの際に利用される海として重要な海である。

権現ノ鼻の港からは物流等の舟が出ることはなくなったが、正月に行われるホーランエンヤ（大分県選択無形民俗文化財）という行事では、大漁旗や万国旗で鮮やかに飾られた宝来船が豊漁と航海の安全を祈願するために、桂川を上って若宮八幡神社に至る。権現ノ鼻には、元々琴平社の岩屋があったが、道路拡幅の影響で、より海側に移動している。

雨乞いのために行われた「潮汲み神事」は、水不足に困った集落の神社などの境内に川の水や海水を撒くことで、雨雲を発生させて雨を降らせるといった雨乞いの方法で、干ばつの程度が小さいときは、周辺の川などで水を汲んできて祈祷を行うが、干ばつの程度が酷く、川の水では雨が降らない場合は、権現ノ鼻まで行って海水を汲んで撒いていた。更に酷い場合は、田染三社の神輿を筏に縛って、桂川に浮かべる川勧請と呼ばれる行事にも発展したようである（最後は昭和2年に行われたと記録が残っている。）。

民話の中で穴井戸観音が権現ノ鼻に繋がっているということは、外の地域との繋がりや、水資源の確保に関連した内容となっている。

穴井戸観音のある洞窟自体にもいくつかの伝承がある。六郷満山の開基とされる仁聞菩薩が、峯々を修行していた時に、洞窟内からしみ出た水でのを潤したとされており、「仁聞の隠れ水」と呼ばれるようになり、頭につけると知恵がつき、飲むと子宝に恵まれると言い伝えられている。

この水はどんな日照りの時でも雫がしたたっていて、洞窟の最奥部にある観音菩薩の石仏を濡らしている。この観音菩薩は「濡れ観音」と呼ばれ、水資源の確保に関する祈りの象徴となっている。

一方で、洞窟の外には岩石に関する民話が幾つか存在している。

1つは参道沿いの西側（登る際に左側）に位置する「鬼封じ込め跡」の伝承であり、田染中学校あけぼの文化クラブ編『田染の文化財』では、「岩の中にふすべこまれた鬼」というタイトルで収録されている。

平安時代に、村を荒らしまわっていた鬼を、間戸寺の僧侶が退治するために、村人に鬼が出た際に青松葉に火をつけるよう指示した。どの家に行っても青松葉の煙のためにいぶし出された鬼は、唯一煙の立たない間戸寺に駆け込んだが、間戸寺の僧侶は法力で鬼を追い出し、穴井戸へと追いやった。鬼は権現様

である穴井戸には入れず、石段の左にある岩穴に逃げ込んだ。間戸寺の僧侶はお経を読みながら、穴の入口に沢山の青松葉を燃やししながら、鬼を穴の中にふすべ込み、大きな穴で塞いだとされている。

また、境内には2つの岩の間にすっぽりとハマった岩で、その下をくぐり抜けることができる「嘔吐き岩」という岩があり、嘔吐きが下を通ると落ちてくるとされている。民話の中では、嘔吐きの鬼の子がこの岩の下を通らせられる際に、岩が突如としてグラグラと揺れ出して、鬼の子は恐ろしくなって嘔吐き岩の下をくぐる事ができなかったが、村の正直者の子が下をくぐる際には何も起こらなかったという話になっている。

更に、洞窟の前方に建てられている薬師堂の仏像にも伝承があり、木彫仏3体の内、1体は「焼仏」とされ、六郷山初期の中核寺院であったと伝えられる西叡山高山寺が焼けた際に飛んできた仏像の1つとされている。

このように洞窟や珍しい岩に関連させて、穴井戸観音には多種多様な民話や伝承が残っており、地域の人の語り草となってきた。

第4節 社会的環境

現在、穴井戸観音は、県または市の指定名勝としては保護されていない。重要文化的景観の重要な構成要素であり、文化財以外の保護措置としては、国東半島県立公園の一部(第2種特別区域)となっている。

土地の所有は、薬師堂となっているが、薬師堂の法人登記はなく、現在は間戸区の管理となっている。間戸区は境内や参道の清掃や、洞窟内に設置されている蛍光灯について日常管理を行っている。

田染地区では、高齢化・人口減少が深刻な地域でもあり、今後の景観維持は大きな課題となっている。穴井戸観音は参拝者の賽銭による収入もあるが、維持費を賄う程には至っていない状況である。国東半島峯道ロングトレイル等のアクティビティでの利活用により、収益化を行うことが目指されている。

豊後高田市教育委員会では、田染荘全域をフィールドミュージアムとして活用する取組を構想しており、富貴寺、真木大堂、熊野磨崖仏、田染荘小崎の農村景観をコアサイトとしつつ、田染荘全域のスケール感や歴史的景観を伝えるスポットを増やし、周遊性を高め、コンテンツに厚みを持たせる取組を推進している。

第5節 これまでの研究

穴井戸観音の歴史的環境・民俗的環境に関する検討は以下のようになされている。

田染荘における歴史学・文化財学的調査は、昭和56年から行われた大分県立風土記の丘歴史民俗資料館(現大分県立歴史博物館)による豊後国田染荘の調査である。同調査では、田染地区に残る荘園時代の遺構や、立荘以前から昭和時代にかけての土地利用の変遷について考察がなされ、重要文化的景観「田染荘小崎の農村景観」の選定等のベースになっていったが、調査手法として日本史学以外にも埋蔵文化財や民俗学、自然分野にわたる調査グループにより、田染荘という地域を総合的に捉えようとした点も当時としては革新的なものであった。穴井戸観音に関連しては、豊後国田染荘の調査では民俗分野において、六郷山の仏教文化(峯入りなど)に関連した記述が主なものであった。また、観音菩薩への信仰が水に関連するという内容も掲載された所である。

その後、穴井戸観音は田染荘が史跡指定を目指した際には、指定地の候補にこそならなかったが、平成11年から実施された農水省の田園空間博物館整備事業では、関連する遺構の1つとして事業の対象とな

り、平成 22 年の重要文化的景観の選定範囲にもなっている。重要文化的景観の選定に際する調査においては、キクガシラコウモリ・コキクガシラコウモリに関しても改めて調査がなされ、田染地区の生物多様性に穴井戸観音の洞窟が良い影響を与えていることが記載された。

平成 26～27 年度にかけて行われた文化庁文化財部記念物課の名勝に関する特定の調査研究事業（大分県の名勝に関する特定の調査研究事業）においては、国東半島六郷山寺院に関する名勝調査が実施された。同調査では、田染地区は一定の評価を受けながらも、六郷山寺院と関連して傑出する要素がないとして個別調査の対象から除外された。

そこで豊後高田市教育委員会では、平成 29～30 年度に文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金を受けて追加の名勝調査を実施し、平成 31 年 3 月には『国東半島田染名勝調査報告書』を刊行した。

本調査では、島原藩領田染組村絵図に描かれる岩峰の位置及び絵図作成時の視点場について深い検討を加えた。それらの情報はベースマップとした森林基本図・村絵図に落とすだけでなく、緯度経度に紐づけて整理し、Google マップ上にも表示ができるようにし、風致を形成する要素同士の位置関係について、より分かりやすく整理することができた。

また、特筆すべき風致を持つ 6 ヶ所（鍋山・喜久山・朝日岩屋及び夕日岩屋・穴井戸観音・ウトノアナ及びゼゼノサマ・西叡山）について、文献調査や現地調査（踏査やドローン撮影）を実施し、調査委員の専門領域毎にもその価値をまとめていただいた。夕日岩屋・朝日岩屋は、田染荘の信仰に関する要素と、荘園村落との関係性の部分で評価され、江戸時代後期に選定された田染八景によって観賞的視点が添えられたことがまとめられた。

本調査によって、田染地区における岩峰群の風致のなりたちや特性、荘園時代に基盤を置く風致の時代的な連続性や関連性について、新たな知見を多く得ることができた。

第 2 章 穴井戸観音の内容と価値

第 1 節 穴井戸観音の風致景観に対する評価の歴史的変遷

穴井戸観音は、間戸集落の岩山の中にできた洞窟と、その入口につくられた薬師堂からなる名勝地である。

洞窟自体は自然にできたものであり、その形状には手が加えられていないが、洞窟及び境内地に近世～昭和時代にかけて石仏が配置されてきた。その他の石造物としては、一石五輪塔、狛犬、燈籠などがあり、五輪塔だけは中世後期に遡るものであると考えられる。

現在の薬師堂は、昭和時代に建て替えられたもので（時期詳細不明）、付近の岩を観察すると、現在の建物よりやや大きな堂宇があったことが推定できる。江戸時代前期の田染地区を描いたと推定される「島原藩領田染組村絵図」の間戸村絵図によると「堂」とあり、堂宇の記号があるため、江戸時代には堂宇があった可能性が高い。

○六郷山寺院の修行場としての穴井戸観音

穴井戸観音は、建武 4 年(1337)の「六郷山本中末寺次第并四至等注文案」に記載される六郷山寺院の間戸寺に関連する行場の 1 つと考えられている。堂宇に残される木彫仏の残欠を見ると、風滅の具合は著

しいものの、その内1 軀については、つくりの特徴から平安時代のものと推定されており、田染地域一帯の六郷山寺院の発展と同じような時期に成立したものと推定されている。

穴井戸観音自体は、中世史料には登場しないが、境内の石造物においては、中世末の一石五輪塔が1 基あり、それ以外は近世～近代の石仏が中心である。

近世の史料では、江戸時代前期の様子が描かれた田染組間戸村絵図では、岩峰の中に、岩屋の記号である○が描かれ、更に堂宇の記号と「堂」の注記があり、前方（南側）には石段の記号が描かれている。現在の堂宇は昭和時代に作られたものであるが、岩室のホゾ穴を見ると一回り大きな建物があつたことが分かり、江戸時代の前期の段階である程度整備されていたと推定される。

また、江戸時代後期に整理された峯入りのルートを書いた『豊前豊後六郷山百八十三所霊場記』によると、朝日山岩屋という名称で紹介されており、「本尊やくし如来」「岩屋あなふかし、間戸村にてたいまつもらい入見るべし」と記載があり、穴井戸観音の事を指している事が分かる。

このように、穴井戸観音は江戸時代前期頃には、堂宇を持つ霊場となっており、江戸時代後期には六郷山の峯入りのルートにもなっていたと考えられる。

○民話を通して繋がる穴井戸観音

穴井戸観音は、多くの民話が集まっている場所として古くから認識があり、西高国語サークルの『仏の里の民話』や、田染中学校あけぼのクラブ『田染の文化財』などに多数の関連する民話を集録するほか、今回の名勝調査の中でも「鯛石」などの民話を聞き取ることができた。

特に穴井戸観音は常に水で満たされている洞窟であることから、水資源の確保に関する話が多く残っている。間戸地区は桂川と小崎川の間にある台地状のエリアで、一ツ岡溜池や宮の下溜池、その他の小さな溜池を使って灌漑を行っている。周辺の村と比べると、村内における畑地が広く、水資源の確保に特に苦心した地域であると言える。

このような自然・農業環境にあって、穴井戸観音は民話・伝承の中でよりシンボリックに描かれてきたと捉えることができる。

☆年表

年号	事柄
中世ごろ	間戸寺に関連して、五輪塔が置かれるなどの整備がなされる。
江戸時代前期	西叡山の焼仏の伝承がある。
江戸時代後期	『霊場記』に「朝日山岩屋」として登場する。
昭和初期	洞窟内外の石仏等が整備される。
昭和 26 年	国東半島県立自然公園に指定される。
平成 22 年	田染荘小崎の農村景観が、重要文化的景観に選定され、穴井戸観音も重要な構成要素となる。
平成 25 年	国東半島宇佐地域が世界農業遺産 (GIAHS) に認定され、穴井戸観音も含めた田染荘の景観が評価された。

第2節 構成要素及び周辺の要素

○穴井戸観音

涸れることのない水が湧くという穴井戸の伝説のある洞窟の霊場。奥行約20メートルで、奥部には常に天井からしたたる水によって濡れている「濡れ観音」が安置されている。

六郷山の開基である仁聞菩薩が修行したとされ、江戸時代には六郷山の峯入りのルートにも入るなど、行場として認知される一方で、台地状になっていて水資源の乏しい間戸村の中では、水に対する祈りを込めた民話や伝説を多く残してきた。

○薬師堂

穴井戸観音の洞窟の前方に位置する小堂。『豊前豊後六郷山百八十三所霊場記』の記載によれば、江戸時代後期の段階で本尊は薬師如来となっており、現在もあまり古くはないものの薬師如来の立像を中心に配置している。

江戸時代前期の間戸村の様子を描いた「島原藩領田染組間戸村絵図」によれば、穴井戸観音に該当する所には、堂宇の記号と「堂」の注記があり、当時から堂宇を伴っていた可能性が高い。薬師堂の基礎部を確認すると、以前に建っていた堂宇のものと思われるホゾ穴などがあり、現在の堂宇よりも一回り大きなものが建っていた時期があると推定される。

○焼仏、木彫仏

内陣に向かって左側に安置される風損している木彫仏の残欠は、焼仏と呼ばれるもので、江戸時代前期に火災に遭った高山寺の仏像が焼けながらにして飛んできたという伝承が残っている。風損具合が著しく尊名は不詳である。

○洞窟内石仏

洞内に多くの石仏が置かれているが、背面に銘が彫っており、昭和初期～前期において、地域住民によって設置されたものである。

○濡れ観音

洞窟の最奥部に祀られる観音菩薩の石仏。上部から常に水が滴っており、どんな干ばつの際にも乾くことがないと言われている。

濡れ観音に垂れている水は、仁聞が修行をしたときに使ったとして、「仁聞の隠れ水」と呼ばれている。頭につけると知恵がつくと言われており、汲んで持って帰れるようにバケツが設置してある。

○穴井戸

洞窟の東側にある狭隘な隙間で、かつては井戸のように水が溜まっていたとされる。竿をつないで挿しても底につかないとされており、先は海（豊後高田市玉津の権現ノ鼻という場所で、港になっていただけでなく、古くから雨乞いの際の水の汲み場として知られていた）に繋がっているとされる。穴井戸に逃げた鶏が玉津・権現ノ鼻に出てきた民話や、恵比寿様が穴井戸で鯛を釣り上げた民話がある。

○鯛石

薬師堂の上部に、1メートルほどの長さの魚の形をした岩の瘤がある。これは恵比寿様が海で繋がっているという伝承のある穴井戸で釣りをして、見事鯛を釣り上げたという民話となっている。

○鬼封じ込め跡

薬師堂参道の中腹、西側に鬼が封じ込められたとされる場所がある。鬼は畑を荒らすなどの悪行を行っており、近くにあったとされる間戸寺の僧侶によって封じ込められたとされている。

○五輪塔

境内東側に、一石五輪塔が一基あり、境内では唯一中世のものと評価されている石造物である。

○嘘吐き岩

薬師堂に向かって左側には、岩の間を回ることができるようになっている場所がある。2つの岩の間に、小さな岩が不安定に掛かっており、通称嘘吐き岩と呼ばれている。嘘の上手な鬼の子が、ここを通ろうとすると、岩が落ちそうになって通れなかったが、正直者の村の子が通るときは何事もなかったという伝承がある。

☆周辺の要素

○田染荘小崎の水田

夕日岩屋の西側に望む田染小崎の水田。土地利用の形態がほとんど中世から変化しておらず、地形に合わせて曲線を描く水田は美しい。夕日岩屋から水田景観が一望でき、田染荘のメインビジュアルとして定着している。全体が重要文化的景観「田染荘小崎の農村景観」の重要な構成要素となっている。

○西叡山

夕日岩屋又は金毘羅からみて北西側に見える高い山。平安時代には中腹に六郷山本山本寺の「高山」が所在し、伝承や民話では大火災に見舞われて、焼けた仏像が山の四方に飛び散ったとされている。

金毘羅からは正面に近い位置に西叡山があることから、金毘羅が高山の遥拝の場として「拝み岩」と呼ばれる由来となったとされる。

○朝日岩屋

夕日岩屋の所在する岩峰の裏側、東側を望む位置にある岩屋。夕日岩屋と同じく建武4（1337）年の「六郷山本中末寺次第并四至等注文案」に登場し、夕日岩屋と対置されている岩屋である。

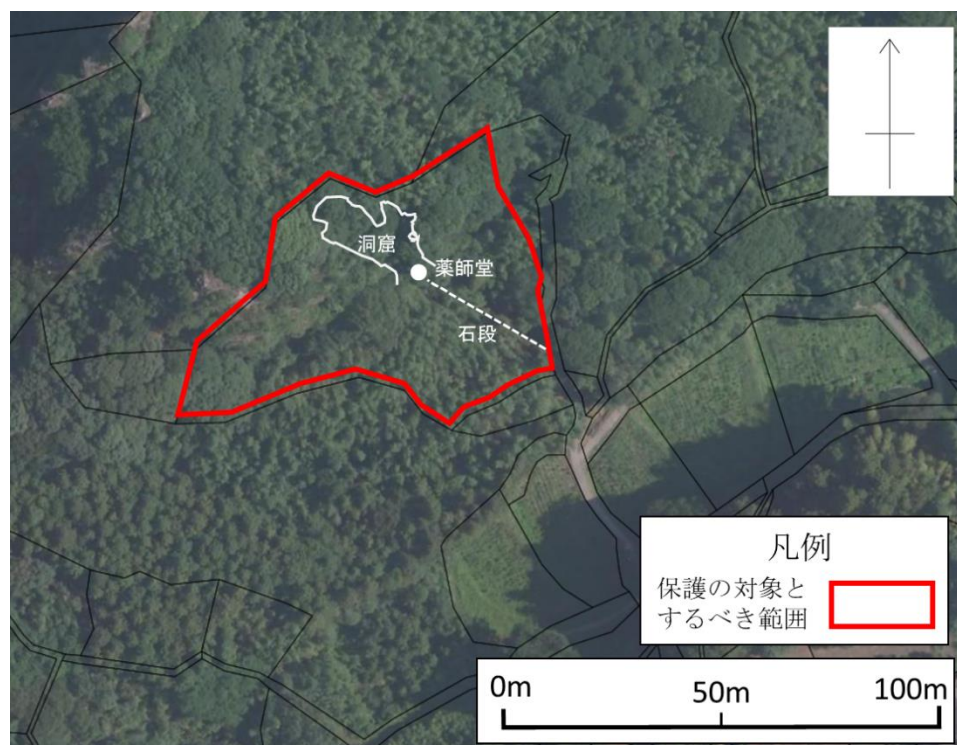
☆関連する要素

○権現ノ鼻（ごんげのはな）

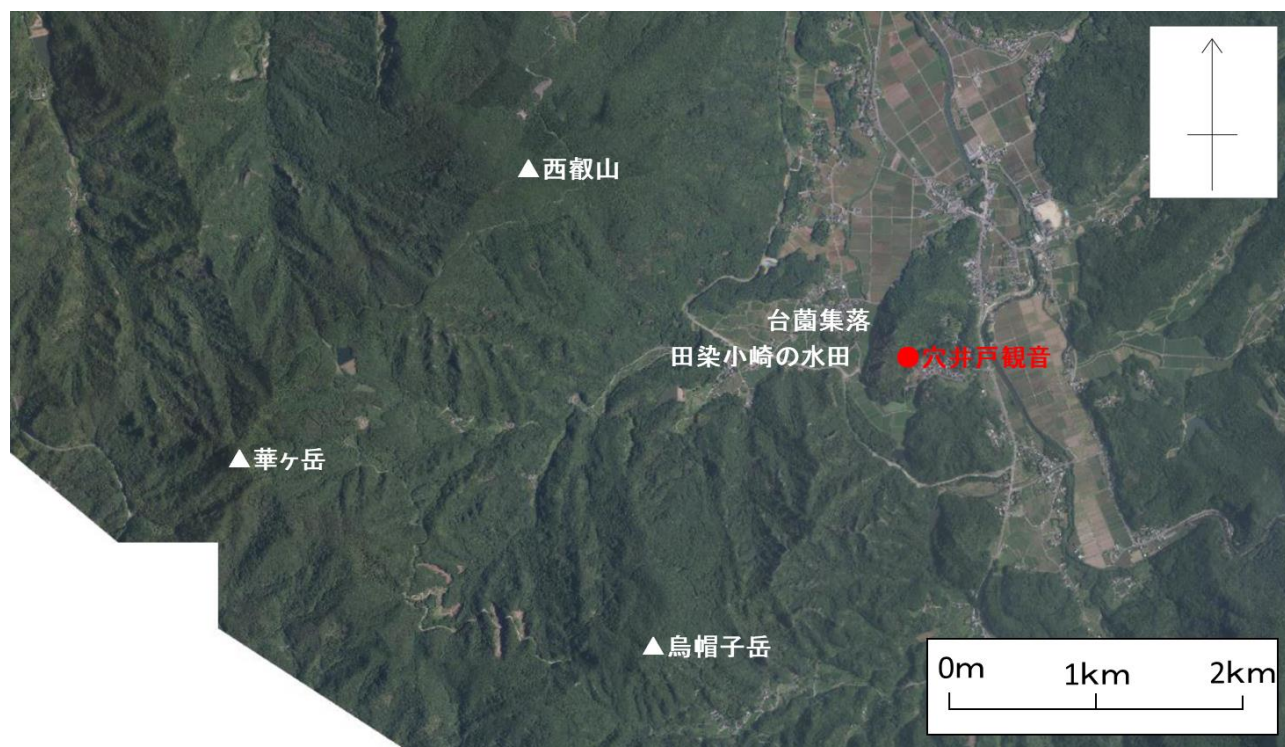
豊後高田市玉津の地名で、古くから豊後高田の港・船着き場があった場所として知られている。昭和50年代まで琴平宮があったが、道路新設の工事の際に海側へ移動している。現在でも船着き場が整備されており、正月の祭り・ホーランエンヤの出発点となっているなど、港だった時代の名残りが感じられる。

穴井戸観音には、鶏が穴井戸の深い穴を抜けて権現ノ鼻に出る民話などが残されているが、この権現ノ鼻が港であったことや、雨乞いの潮汲み行事で水を汲む場所であることが、2つの場所を結び付ける要素となっている。

☆穴井戸観音の構成要素位置図



☆穴井戸観音の周辺の要素位置図



第3節 穴井戸観音の価値

田染真中の間戸集落の北西端に位置する「穴井戸観音」は、涸れることのないという伝承のある「穴井戸」があり、同じく天井からしたたる水で乾くことのない「濡れ菩薩」を祀る洞窟状の岩屋の名勝地である。

国東半島の南西部に盆地状に広がる田染地区の中でも、間戸集落は阿蘇4火砕流（Aso-4）の堆積物によってできた台地にあり、阿蘇4火砕流の堆積物は、凝灰岩の柔らかい質の岩石を含んでいる。穴井戸観音がある岩峰は、田染地区の山岳地形を形成する主な地質である古期宇佐火山岩類の火山砕屑岩の岩峰が、長い年月をかけて河川などの侵食を受けて屹立したものである。穴井戸観音がある岩峰の高さは約40メートル、麓からでは約60メートルの高低差があり、水平層理の柔らかい地層に洞窟ができており、入口付近が過去に崩落をしていることから、非常に弱い部分が侵食されてできたことが分かる。

洞窟の内部は深さ20メートルで、幅は広い所で13メートルほど、高さは崩落部分で約4メートル、濡れ観音の前で1.5メートルほどであり、洞窟の中には石仏が多く安置されており、回遊できるようになっている。洞窟内にできた穴井戸は洞窟の東側に位置しており、現在では水は溜まっていないものの、6メートルを超える深さとなっている。

穴井戸観音は、中世は間戸寺に関連する霊場であったと考えられ、江戸時代には、元禄2（1689）に原本が作られた「島原藩領田染組間戸村絵図」において、穴井戸観音の位置に白丸の記号により岩屋が示してあるだけでなく、その中に堂宇を示す家形の記号と、「堂」の注記が見られ、少なくともこの時期には堂宇を伴う霊場となっていたことがうかがえる。その後、六郷山の峯入りのルートを整理した『豊前豊後六郷山百八十三所霊場記』によれば、「朝日山岩屋」として峯入りの霊場に列せられ、洞窟が深く、間戸村の住民から松明を借りて入るようといった注釈も付されている。また、水が涸れることがないという伝承から庶民の信仰も集めて、江戸時代から近代にかけて石仏等が集められていった。

穴井戸観音の洞窟や穴井戸の独特な地形や、間戸村の六郷山に関する信仰の文化から、穴井戸観音には多くの民話が生まれ、現在も語り継がれている。六郷山の開基である仁聞が洞窟内で修行をし、濡れ観音の水を頭に塗ると知恵がつく等のご利益を持ったという話や、穴井戸の先は豊後高田市玉津の権現ノ鼻という港に繋がっており、穴井戸の中に逃げた鶏が玉津で見つかった民話や、恵比寿様が穴井戸で大きな鯛を釣り上げた民話等が残っている。洞窟の周辺にも、鬼を封じ込めた跡の大岩の話や、岩の間にひっかかった岩が嘔吐きを通る時だけ落下しそうになる「嘔吐き岩」の話など多種多様である。

以上のように、穴井戸観音は中世以来、六郷山寺院・間戸寺に関連する行場として成立し、近世には六郷山の峯入りのルートにもなった洞窟状の岩屋であるが、水資源の確保に苦しむ庶民の信仰も集めるようになり、独特な地形の洞窟や穴井戸、濡れ観音や岩石を中心に多くの民話を生み出してきたことも観賞の対象としても著名で重要である。

第3章 穴井戸観音と豊後高田市

第1節 名勝地としての穴井戸観音の意味

豊後高田市は田染地区の文化財や歴史的景観の保護に古くから取り組んでいる。

昭和50年には、豊後高田市・西国東郡（真玉町・香々地町・大田村）の小中学校の教師によって結成された西高国語サークルを中心に、豊後高田市・西国東郡の民話の収集と普及活動に取り組んできた。取組は大分合同新聞紙面で紹介された後、昭和58年には『ほとけの里の民話』としてまとめられ、収集された47の民話について、平成6年に民話説明板が設置された。仁聞の隠れ水について紹介した「穴井戸の話」の民話説明板は、二宮八幡神社附近の市道沿いに設置されている。

一方、昭和50年代には、大分県立風土記の丘歴史民俗資料館による荘園村落詳細分布調査が始まり、その最初のフィールドとして豊後国田染荘が選ばれ、かねてより知られてきた仏教遺産（富貴寺大堂や磨崖仏など）だけでなく、荘園村落遺跡として保護するべきという提起がなされた。穴井戸観音は民俗的な部分が紹介され、水資源の確保に関連して観音菩薩があつく信仰された点や、豊後高田周辺における雨乞いの内容や民話・伝承との関連について注目された。

平成11年に始められた農水省の田園空間博物館整備事業の周遊スポットや、平成22年に選定された田染荘小崎の農村景観の重要な構成要素となり、少ない水資源を確保するための祈りの文化が民話として伝わっている場所として紹介されてきた。平成25年に認定された世界農業遺産においても、農業文化を伝える場所としてコアサイトとなっている。

平成25～27年度に実施された大分県の名勝に関する特定の調査研究事業によって、国東半島の岩山景観と六郷山寺院群にまつわる名勝地について検討がなされ、田染地区については平成28～29年度にかけて、文化庁の補助事業として田染耶馬名勝調査事業を実施し、平成30年3月に『国東半島田染名勝調査報告書』を刊行した。同調査では、島原藩領田染組村絵図をベースに、岩山景観と荘園との関係性について調査を行い、穴井戸観音も特定調査地となって、信仰と民話・伝承等について、荘園村落遺跡との関係性について言及された。

穴井戸観音は、中世以来の六郷山寺院群の霊場としてだけでなく、田染地区における水と関連した様々な農業文化の源泉として著名である。市民にとっても馴染み深く、名勝地として保全することで、夕日岩屋をより良く保存活用していきたい。

第2節 保存活用について

今回「穴井戸観音」として保護すべき範囲の地目は山林であり、岩山と洞窟、その前方に作られた境内からなる。参拝のための登山道や電気類も完成しているため、現状では新たに開発行為が行われる状況ではない。日常の管理としては、地元住民が登山道の清掃を実施したり、景観保護のための竹木の伐採を定期的に実施している。穴井戸観音には、岩山や洞窟が含まれる名勝地であるので、周囲の災害対策（事故防止や防災）などの計画と連動した保存・メンテナンスが必要となってくる。

活用については、重要文化的景観や世界農業遺産などの視点場として引き続き活用するほか、観光の取組では、国東半島峯道ロングトレイルや、日本遺産くにしきの取組で開発した国東半島リトリートのツアープログラムと連動させて活用を進めていきたい。

令和4年に登録記念物（名勝地関係）に登録された「鍋山（南屏峽）」、令和6年に同登録を受けた「朝日岩屋」「夕日岩屋」や、田染耶馬名勝調査の他の特定調査地、その他の史跡・重要文化的景観との連携をしながら、保存活用に努めていきたい。

以下に、穴井戸観音の保存活用における課題を整理しておく。

- | | |
|------------|--|
| ①景観保護の継続実施 | 現在実施されている景観保全の継続実施
景観保全に関する後継者・協力者の育成 |
| ②周知広報・普及啓発 | 出前講座など市民向けの見学イベント
動画等を用いた穴井戸観音の紹介 |
| ③観光事業の検討 | 国東半島峯道ロングトレイル等での利用促進 |

○参考文献・資料

大分県企画振興部景観自然室編『国東半島県立自然公園環境学術調査報告書』（2009年）
大分県立風土記の丘歴史民俗資料館『豊後国田染荘の調査』（1986年）
田染村志編集委員会『田染村志』（1932年）
文化庁文化財部記念物課『名勝に関する特定の調査研究事業報告書（大分県の名勝に関する特定の調査研究事業）』（2016年）
豊後高田市教育委員会『六郷満山寺院群詳細調査事業報告書』（2016年）
豊後高田市教育委員会『重要文化的景観 田染荘小崎の農村景観 保存計画』（2016年）
豊後高田市教育委員会『国東半島田染名勝調査報告書』（2019年）
豊後高田市教育委員会『鍋山（南屏峽）名勝調査報告書』（2021年）
豊後高田市教育委員会『夕日岩屋・朝日岩屋名勝調査報告書』（2023年）
豊後高田市『豊後高田市史』（1998年）
西国東郡編『西国東郡誌』（1923年）

○参考史料

『島原藩領田染組村絵図』（1836年／1689年原本、豊後高田市所有）
『六郷山諸勤行并諸堂役祭等目録写』（1228年、長安寺文書）
『六郷山本中末寺次第并四至等注文案』（1337年、長安寺文書）
『豊前豊後六郷山百八十三所霊場記』（1755年、霊仙寺所蔵）

穴井戸観音 名勝調査報告書
資料編



図1：穴井戸観音の対象地域の位置を示す図面

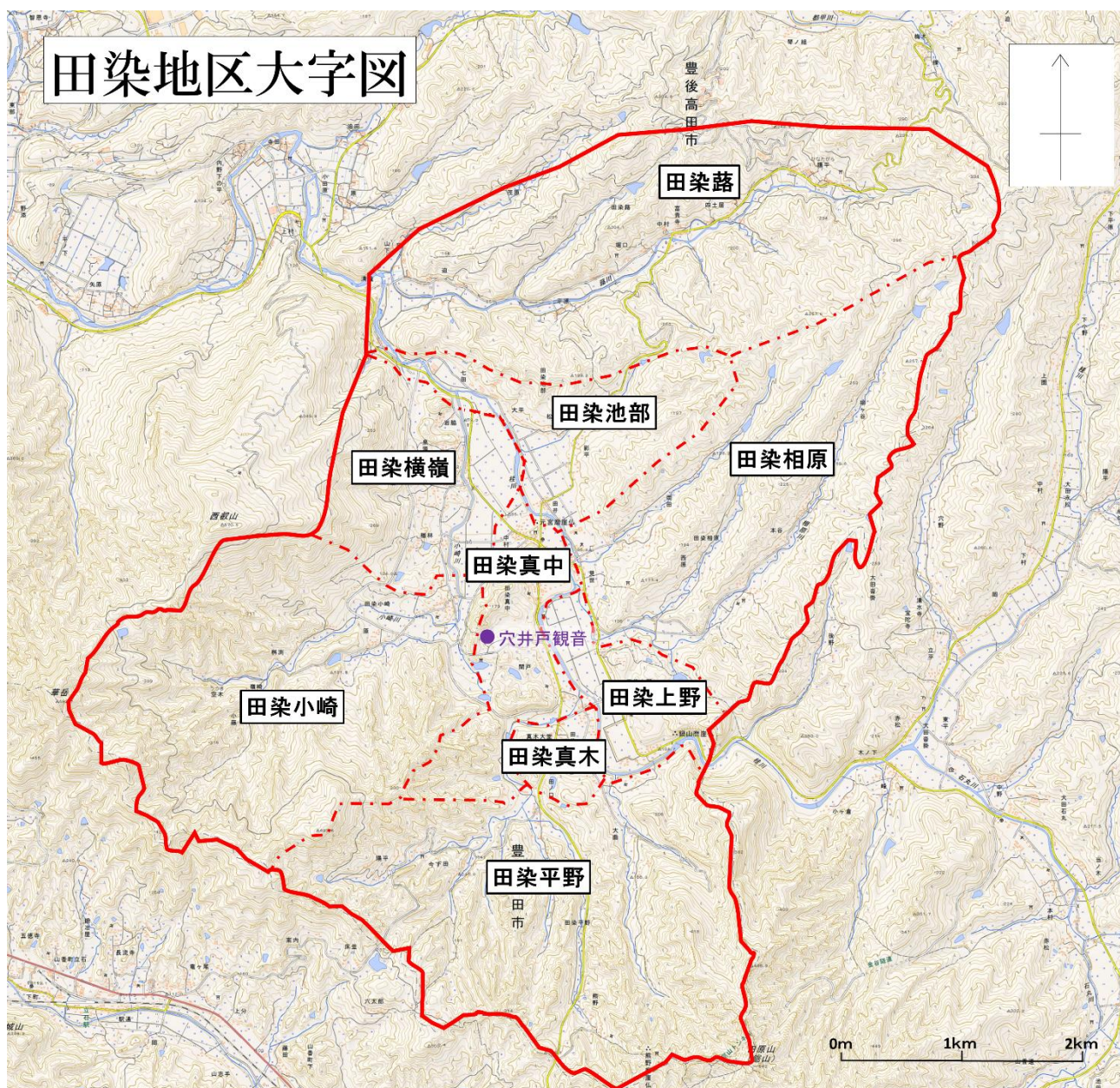


図 2：田染地区大字図

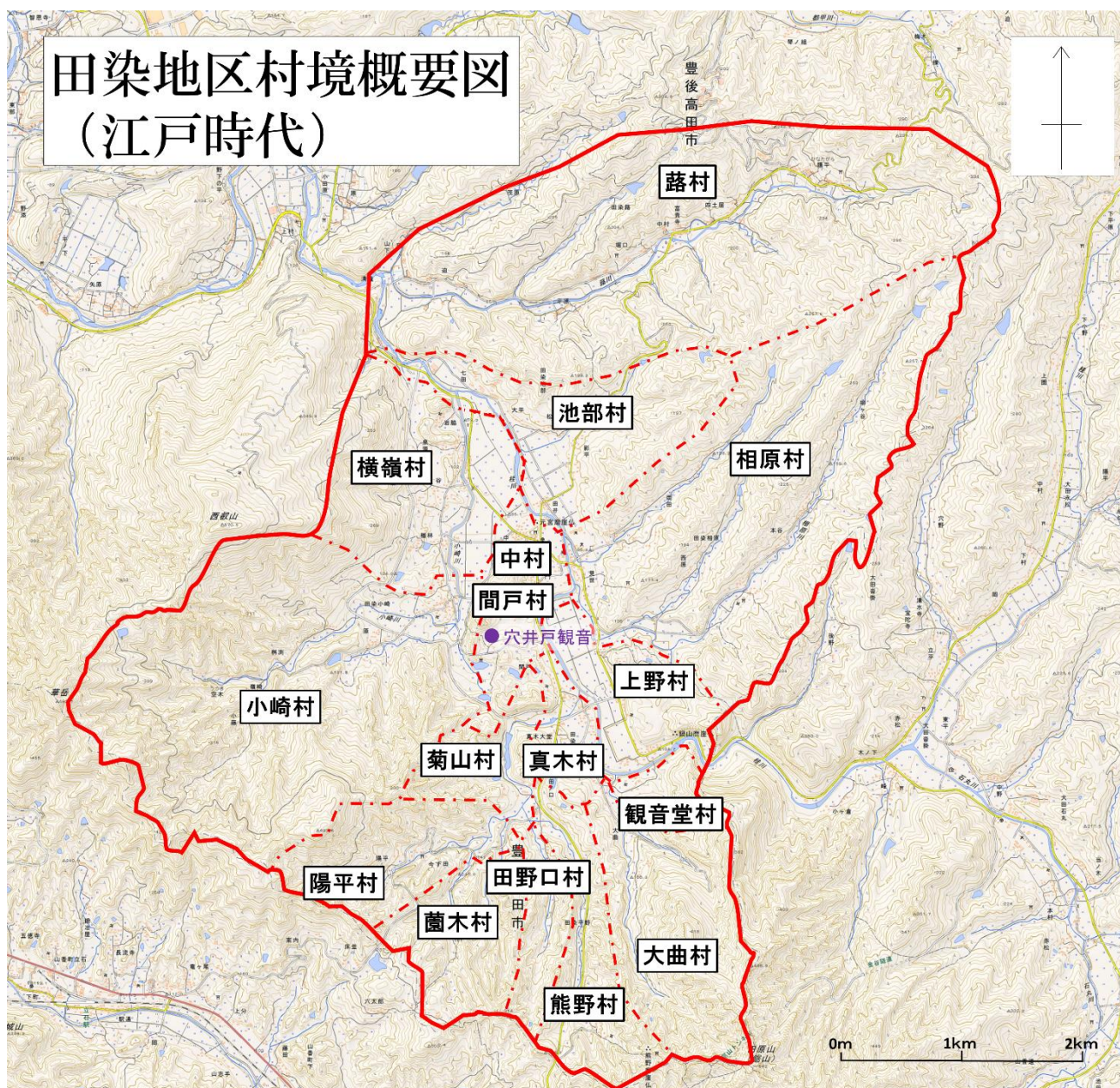


図 3 : 田染地区村境概要図 (江戸時代)

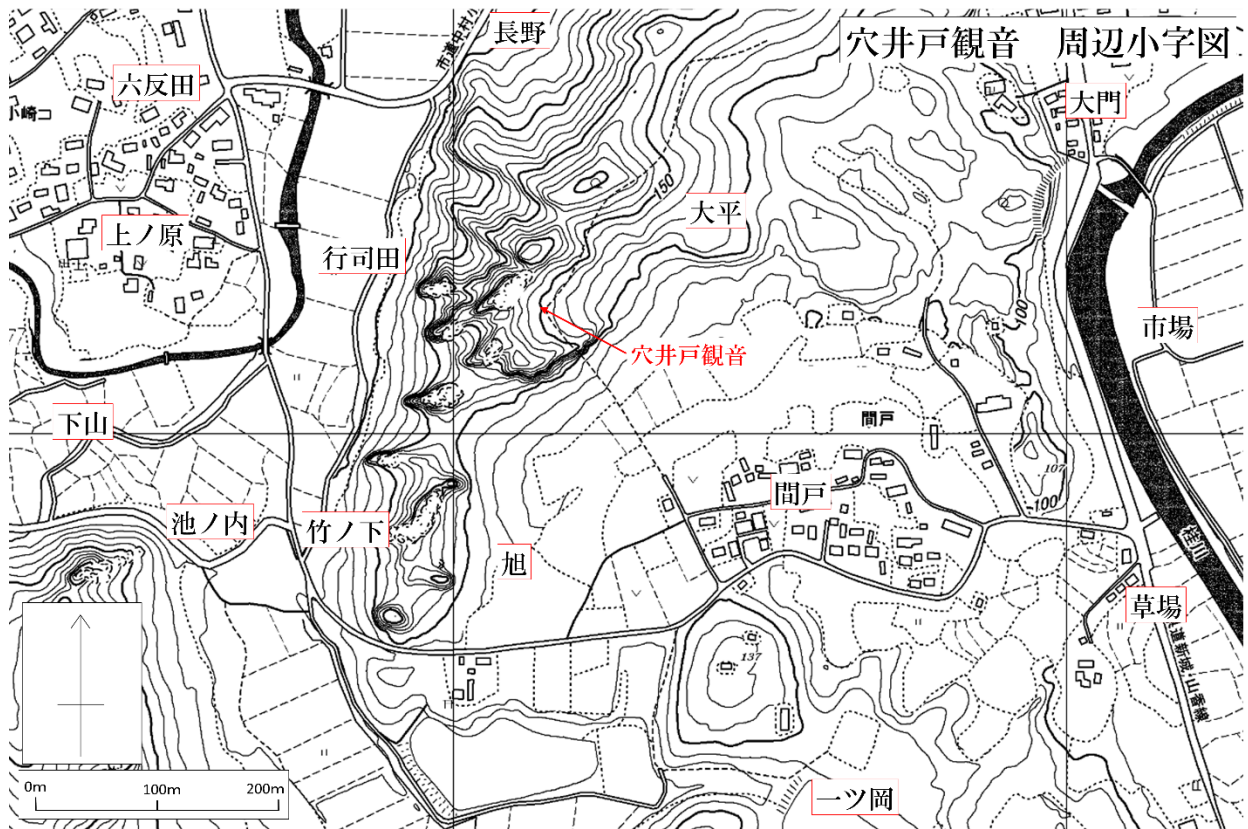


図4：穴井戸観音 周辺小字図

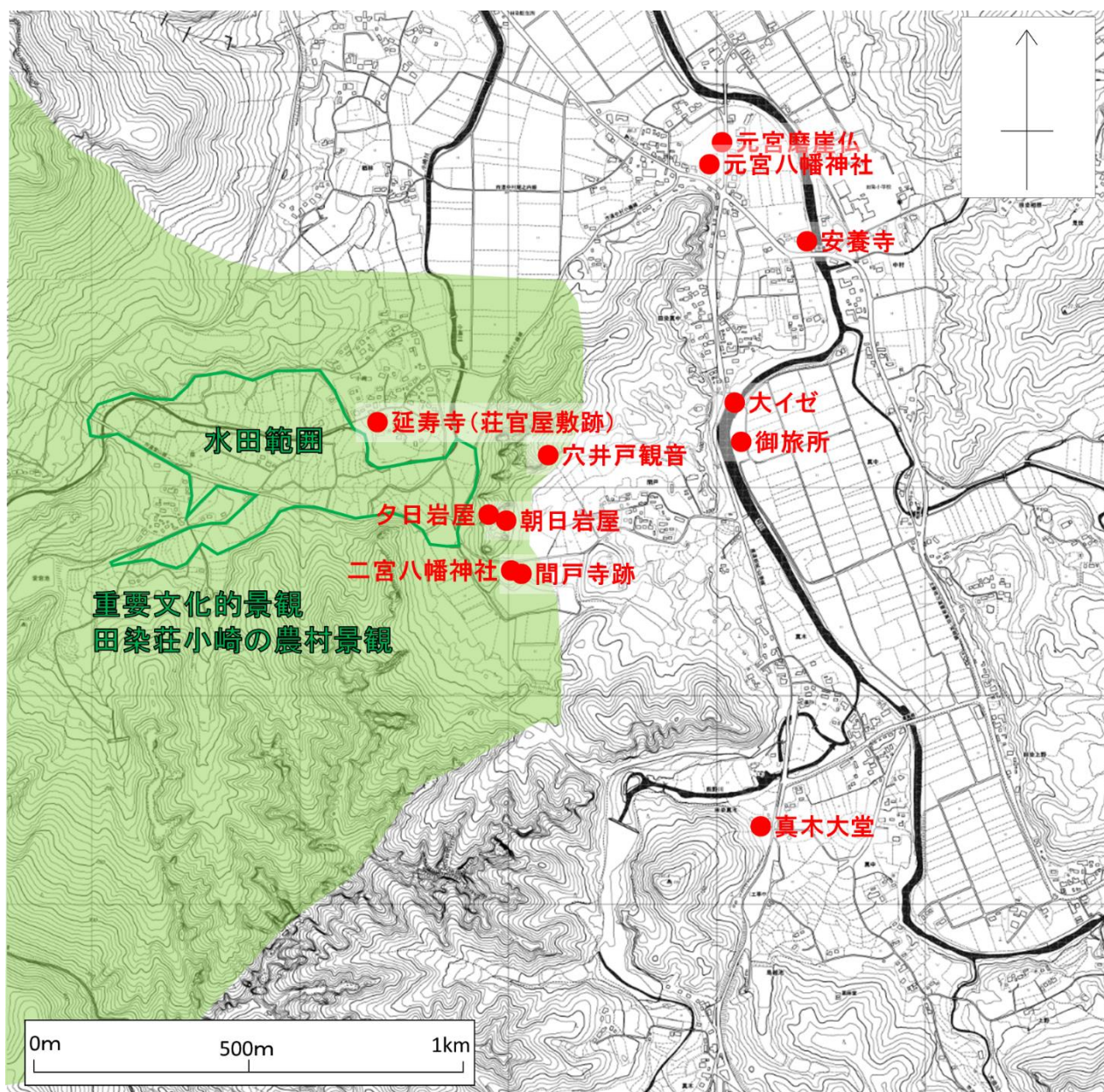


図5：穴井戸観音 周辺の要素の位置図

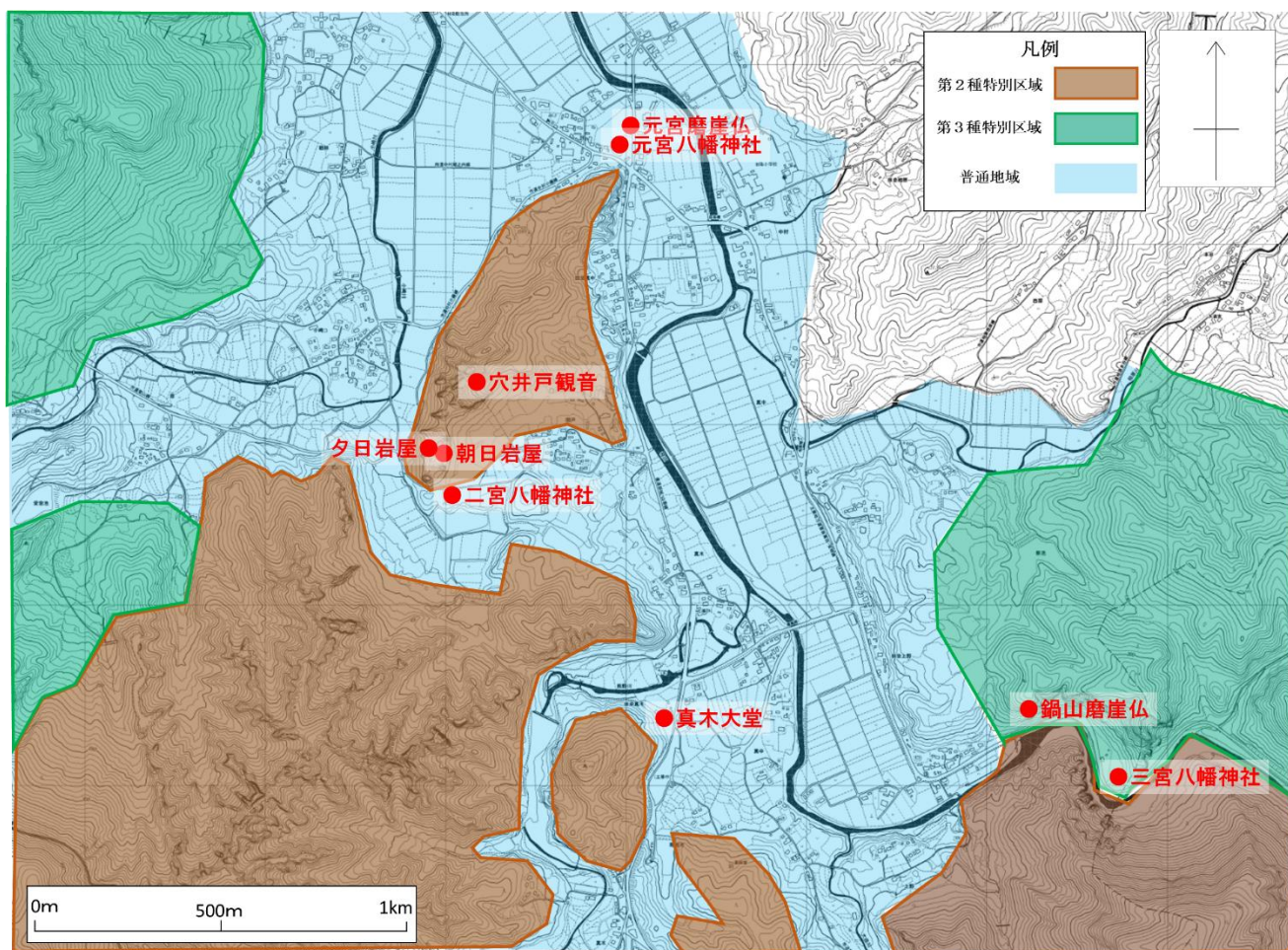


図6：国東半島県立自然公園の規制の範囲

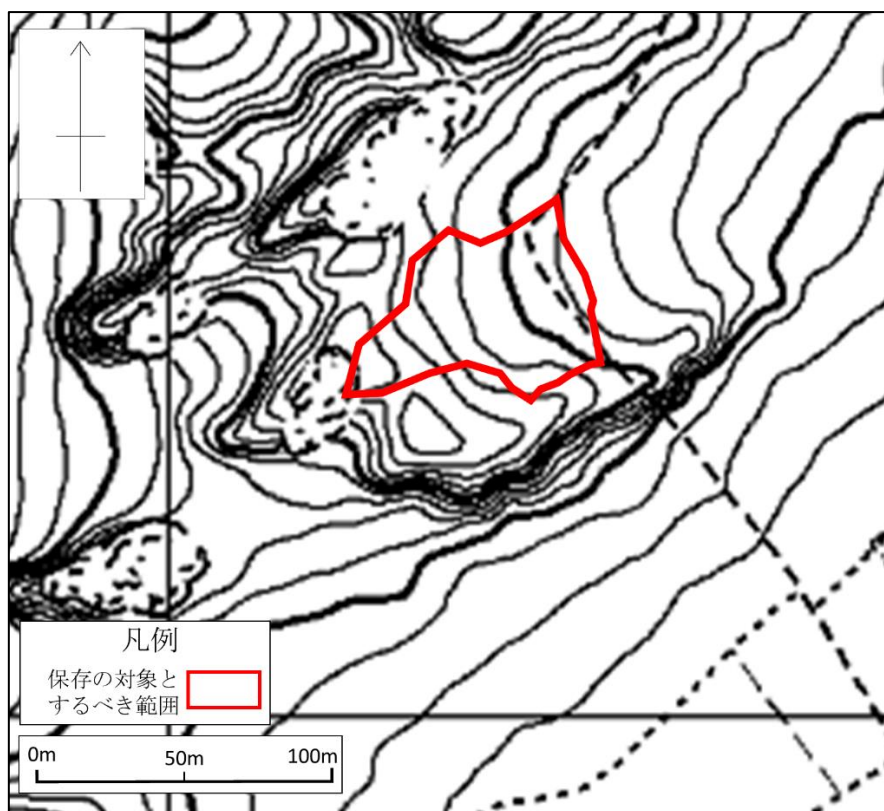


図 7：穴井戸観音 範囲図（地形図）

※地形図に表示される境界などは必ずしも正確ではない。

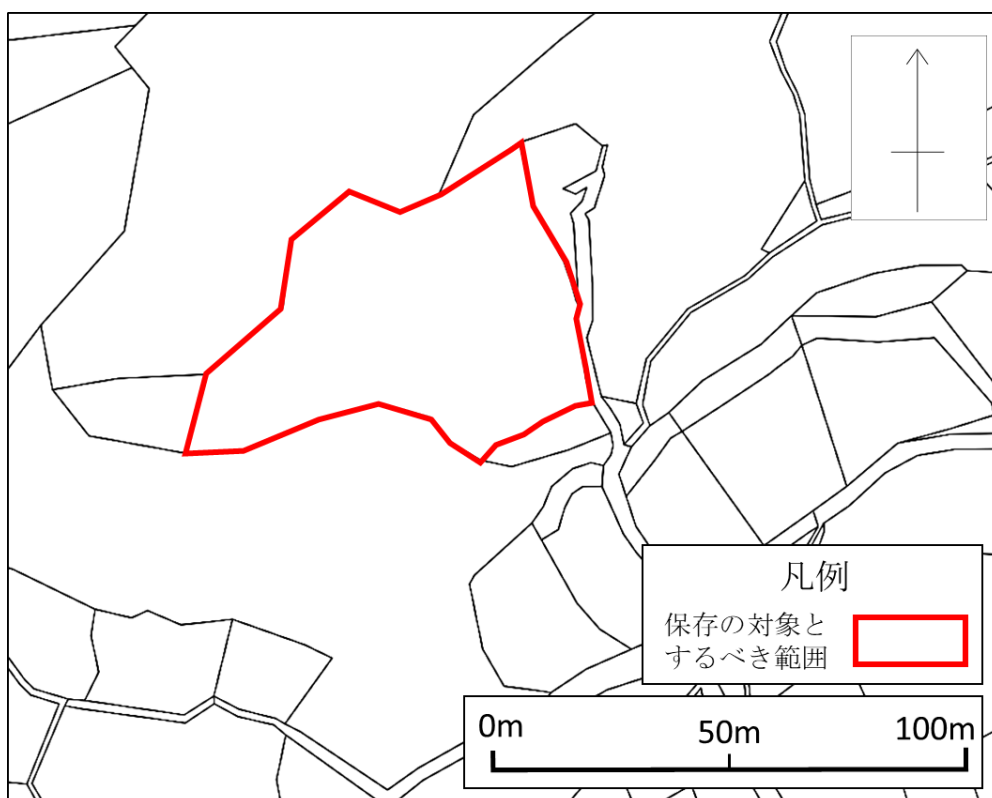


図 8：穴井戸観音 範囲図（公図）

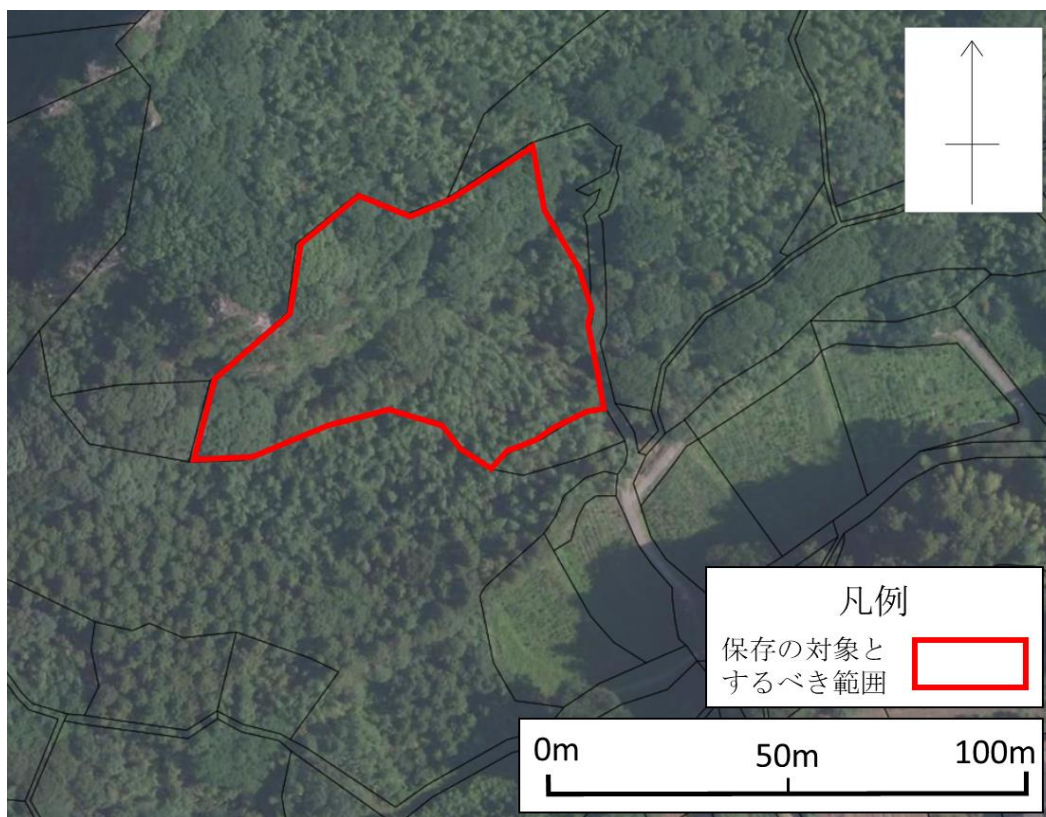


図9：穴井戸観音 範囲図（航空写真）

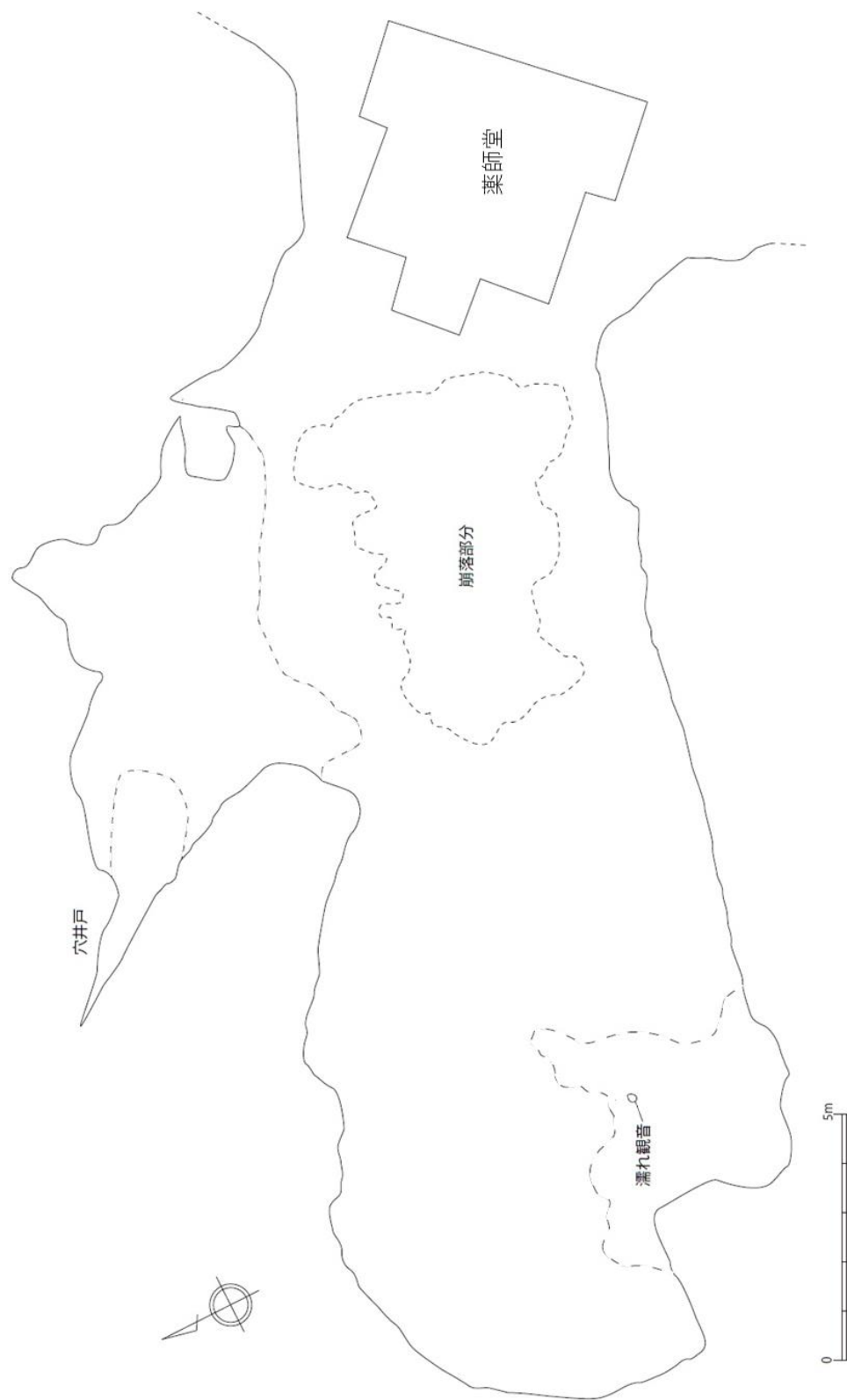


図 10 : 穴井戸観音 平面図

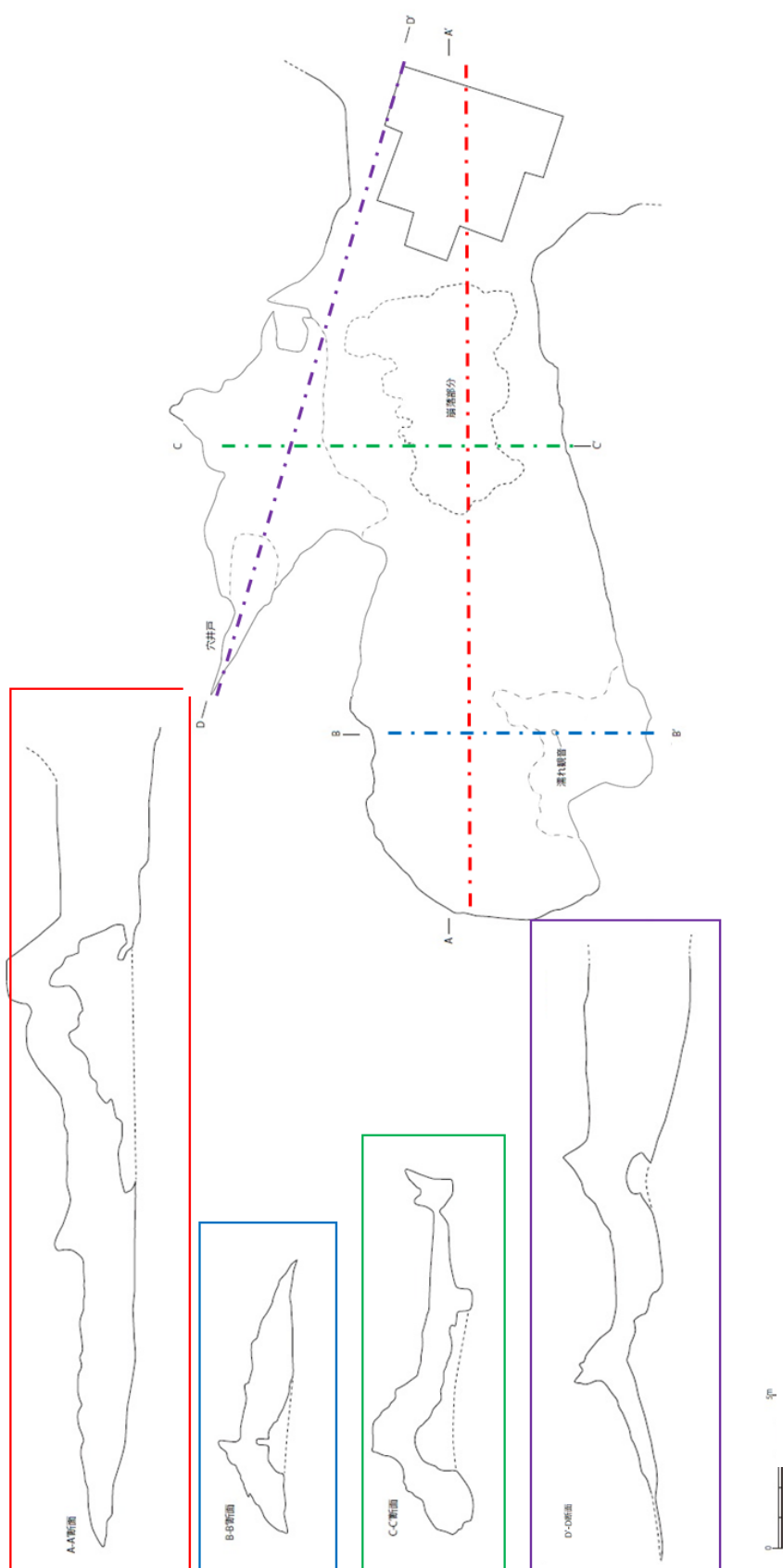


図 11 : 穴井戸観音 断面図

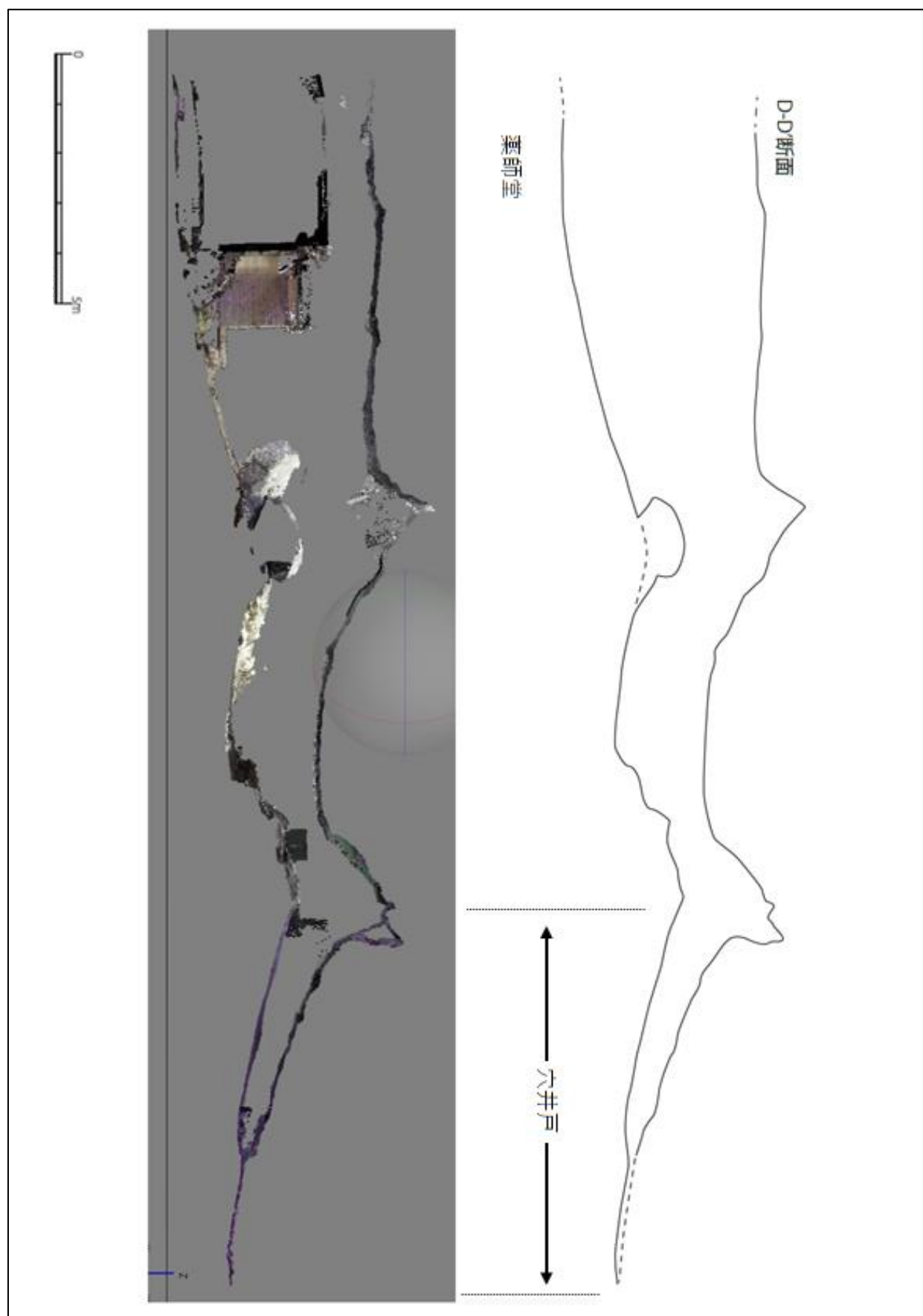


図 12 : 穴井戸部分 断面図拡大



図 13：島原藩領田染組村絵図（間戸村） ※上が北



2つ描かれる岩屋（白丸）の内、左が朝日岩屋・右が穴井戸観音

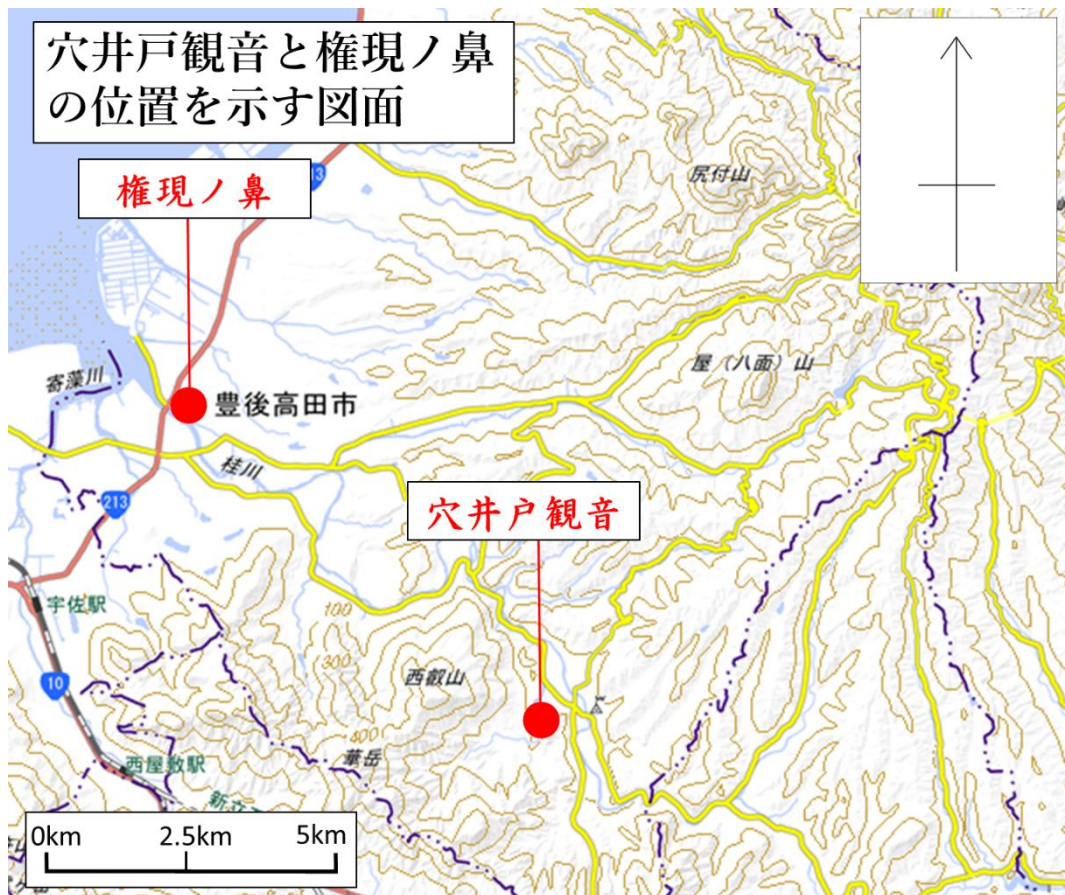


図 14：穴井戸観音と権現ノ鼻の位置を示す図面



図 15：権現ノ鼻周辺の航空写真

【穴井戸観音に関する文献等】

■「六郷山本中末次第并四至等注文案」(『永弘文書』) 建武4年(1337)

(『豊後国荘園公領史料集成2 来縄郷』より)

六郷山本中末次第并末寺四至以下記之、

本山付末寺

一、後山 吉水山 大折山 鞍懸山 津波戸山 高山 馬城山

一、後山 弘口料田畠山野等四至以下、院主相伝之証文爾明白也、當寺領〈今者宇佐／大宮司押領、〉

(中略)

一、高山 弘々料田畠山野等四至以下、院主相伝証文爾明白也、當寺領薫石以下弘門少々〈河野四郎／押領〉

一、馬城山〈限東赤岩辻 限西ハエホシ嶽／限南六太郎美尾 限北光廣〉

委院主所持証文爾明白也、但近年〈曾根崎／十郎押領〉

(中略)

本山末寺

辻小野山 大谷寺 間戸寺 伊多伊 大日岩屋 中津尾岩屋 轆轤岩屋 良醫岩屋 朝日岩屋

夕日岩屋 聞山岩屋 今熊野岩屋 稲積岩屋 日野岩屋 鳥目岩屋 河邊岩屋 鼻津岩屋

普賢岩屋 如覚寺 来迎寺 光明寺

一、口瀧寺〈限東迫 限西マイ淵／限南サクラノ尾立 北山下美尾〉

(中略)

一、良醫岩屋 朝日岩屋 夕日岩屋 聞山岩屋 稲積岩屋 日野岩屋 鳥目岩屋〈馬城山末寺也〉、
彼寺領多分〈曾根崎十郎入道押領〉、寺領四至堺、本寺院主所持証文仁分明也、

(後略)

■『豊前豊後六郷山百八十三所霊場記』(朝日山岩屋の項目)

三十六番 同村札所之内 むぢう

一、朝日山岩屋 本尊やくし如来

是より大門坊迄五丁哉、岩屋あなふかし、

間戸村にてたいまつもらい入見る

■『田染村志』穴井戸岩屋の項(田染村編『田染村志』(昭和7年)、175頁)

穴井戸岩屋

穴井戸岩屋は、田染村大字真中字間戸朝日に在り。間口二間、奥行二間三尺の堂宇に薬師如来、水観音各一軀を安んず。

■『田染村志』穴井戸の雞の項(田染村編『田染村志』(昭和7年)、202頁)

穴井戸は、田染村間戸に在り。附近一帯奇巖突兀、所謂田染耶馬の一にして、朝日観音窟、夕日阿弥陀窟亦近し。十数丈の大洞窟、呀然口を開くもの即ち穴井戸なり。伝え云う、斯の井大古清水を湛へ、数十

竿を連繫するも、尚底に達せざりき。土彦と云ふ者、嘗つて其の愛する所の雞東天紅を、試みに此の井に浮ぶ。暫くにして見えず、泳ぐこと三里、高田権現鼻の海中に出で、鳴一鳴したりと。今其の井埋まりて深さ五六尺に充たず、且つ水涸れたり。窟前に一小祠あり。

■岩の中にふすべこまれた鬼（田染中学校あけぼの文化クラブ『田染の文化財』（昭和 51 年））

平安の昔、六郷満山の一つ、田染の間戸の間戸寺に偉い坊さんがおって栄えていた。その頃どこからともなく鬼が出ては村をあらしまわり、村人をこまらしていた。

その偉い坊さんは鬼を退治して、村人を安心させようと思い、みんなの家にたくさんの青松葉を用意させておいた。

ある日「鬼が出て村をあらしまわっている。」と村人が寺に云って来た。坊さんはさっそく家々に用意してあった「青松葉」をもやすように言いつけた。青松葉に火をつけると家々からモウモウと煙がたちだした。どの家にもいっても煙のためにいぶし出されるので、鬼は煙のたたない間戸寺へ逃げていった。

村人はくすぶる青松葉を手にとって、鬼をおっかけた。

寺にはいった鬼を坊さんは法力をもっておい出し、間戸寺の権現さまである「穴井戸」へ追い上げた。鬼は穴井戸の石段をかけのぼったが、入口に権現さまを祭ってあるので恐ろしくて入れず、左の石段のよこの小さな岩穴にげ込んだ。坊さんはお経を読みながら、穴井戸の入口に村人が持ってきたたくさんの青松葉をもやししながら、鬼を穴の中へふすべ込み、大きな石で穴をふさいでしまった。

それからは、鬼は出ることが出来ず村は昔と同じように静かになって、人々は安心して働くことが出来た。

■穴井戸観音にまつわる伝説（田染中学校あけぼの文化クラブ『田染の文化財』（昭和 51 年））

1、部落に出て悪事を働く鬼を村人たちが追いまわし、この岩穴の井戸の中に追い込み、入口に仏社を建立し、出られないようにした。

2、岩穴中央部に安置してある観音は「濡れ仏観音」といわれ、したたるしずくは日中続いている。日照りの時には洞外に持ち出して雨乞いをする。

3、濡れ観音の後下には小穴があり、この井戸には干満があり、海の干満と同じで、海に通じているとか、また、この井戸に入った鶏が高田の権現の鼻に出たとか伝えられている。

【現況写真】



写真1：穴井戸観音 洞窟内部



写真2：穴井戸観音 遠景

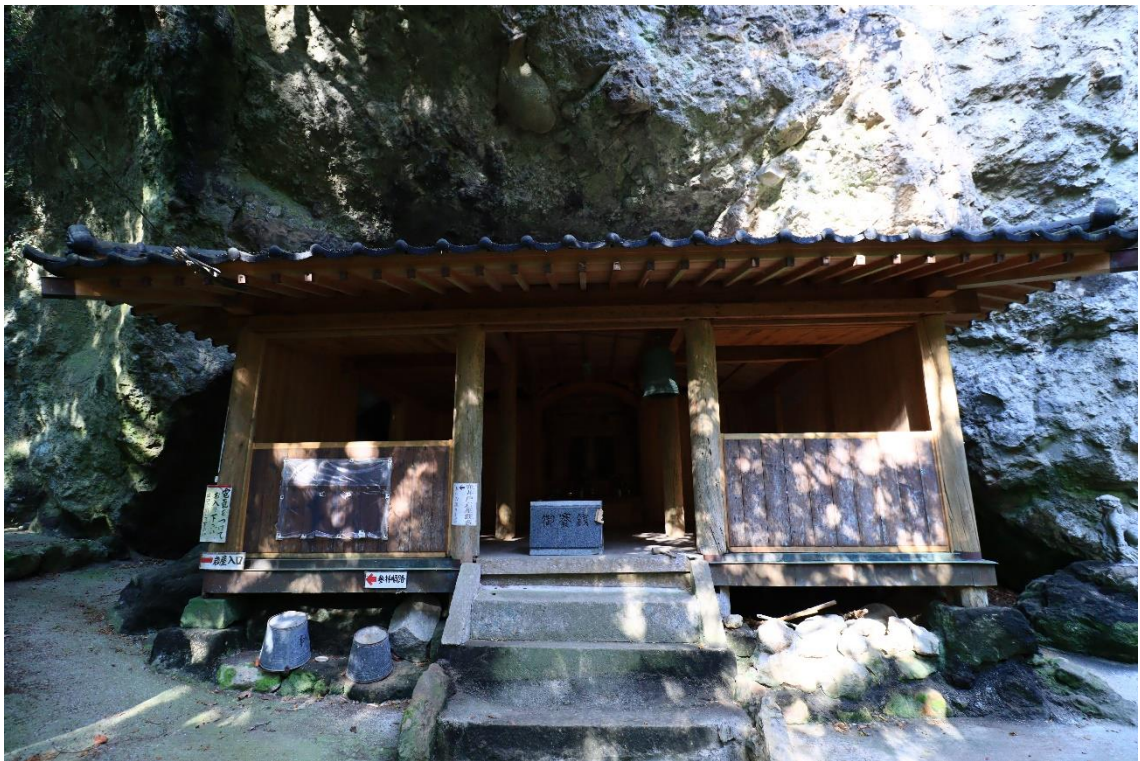


写真3：穴井戸観音 薬師堂



写真4：鯛石



写真 5 : 穴井戸観音 薬師堂内部



写真 6 : 焼き仏



写真7：一石五輪塔

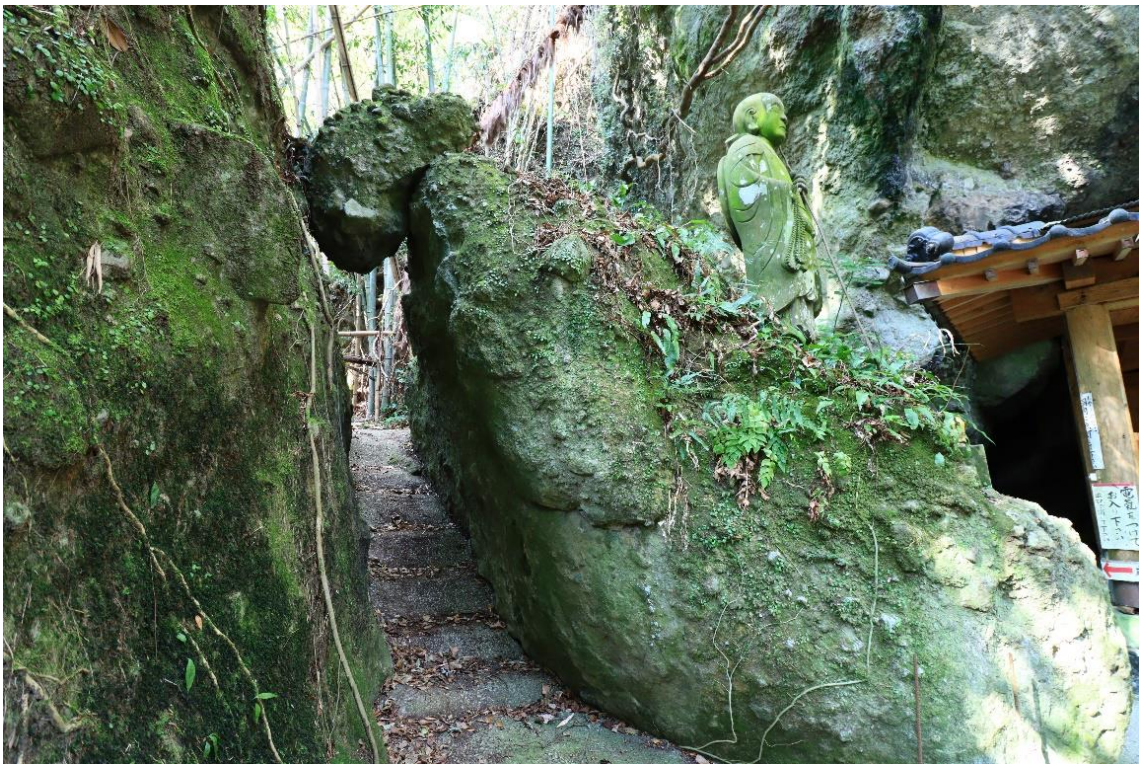


写真8：嘔吐き岩



写真 9 : 鬼封じ込め跡



写真 10 : 穴井戸観音 参道



写真 11 : 穴井戸観音 参道入口



写真 12：穴井戸観音 洞窟内部（西側）



写真 13：穴井戸観音 洞窟内部（東側）



写真 14：穴井戸観音 洞窟内部（濡れ観音から入り口側を望む）



写真 15：穴井戸観音 濡れ観音

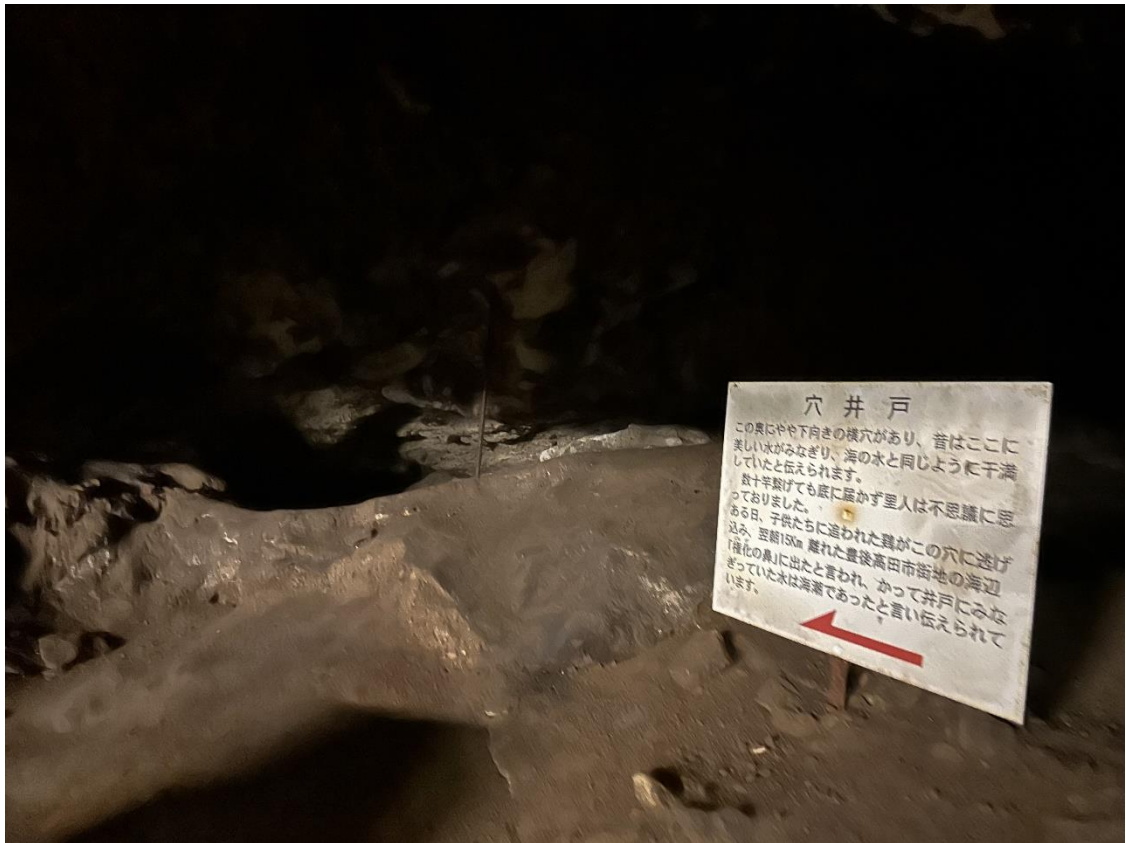


写真 16：穴井戸



写真 17：キクガシラコウモリ

【参考：登録区域外】



写真 18：穴井戸の話の民話看板



写真 19：旧菖蒲園



写真 20 : 管理道



写真 21 : 朝日岩屋



写真 22：間戸寺跡（間戸二層塔）



写真 23：権現ノ鼻

穴井戸観音 名勝調査報告書

発行日：令和 6 年 8 月 2 1 日

発行者：豊後高田市教育委員会

〒872-1101

大分県豊後高田市中真玉 2144-12

TEL:0978-53-5112

